

発行所 (郵便番号100)
東京都千代田区丸の内2-4-1
丸ノ内ビルディング781号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (212) 4007・1447
編集責任者 中嶋 博
印刷所 関東図書株式会社
定価200円 (年間購読料参千円)
1983年9月25日発行
第15巻 第9号
(毎月1回25日発行)
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.15 No. 9号

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

スウェーデンと私

Sweden and I

評議員 慶応義塾大学教授 飯野 靖四
Prof. Yasushi Iino

私がスウェーデンという国の名前を初めて聞いたのは、終戦後2〜3年した6〜7才の頃であったと思う。当時、私は金沢市に住んでいたが、夕方時にしばしば停電があり、停電がある度に鍵のかけてない自転車や履物が盗まれた。したがって停電がある度に、急いで自転車に鍵をかけ、玄関の戸を閉めに走ったことを覚えている。そうした頃に、父か兄のどちらかがヨーロッパにスウェーデンという国があり、スウェーデンでは停電になっても何も盗まれないということを話してくれた。私は子供心に、そんなすばらしい国に住んでみたいと思ったことを今でも鮮明に覚えている。

そんな潜在意識があったばかりではないが、昭和50年からスウェーデンに留学させてもらえることになった。とはいうものの留学前の私には、スウェーデンといえば巨大な体をしたひげもじゃのヴァイキングの国というイメージがもっとも強かった。しかもスウェーデン人の生活環境を調べてみると日本よりはるかに高い。私の所得などは明らかにスウェーデンの最低賃金水準以下であった。私は次第にスウェーデンに留学することが恐ろしくなってきた。しかし留学が決まった以上、行かねばならない。それで意を決してスウェーデンでも南の方のルンド大学に留学することを決めた。

私の最初のカルチュラル・ショックは、スウェーデンへ行く途中のモスクワ空港で起きた。モスクワ空港で時間待ちのため洗面に行った時、据え

付けの台の位置が高くて、短足の私は、つまたてをして用をたさねばならなかったからである。

私は留学が決まった時から、スウェーデン社会研究所でスウェーデン語の講習をうけ始めた。講師はビヤネール多美子氏とヤンソン由美子氏であった。お二人方にはスウェーデン語のほかにスウェーデン的発想法を教えていただいた。しかしここで学んだスウェーデン語を最初は生かすことができなかつた。なぜなら返答のスウェーデン語を聞きとることができなかつたからである。それでまず第一にスウェーデン語学校へ通うことからスウェーデン社会に接近することを始めた。スウェーデン語の勉強は、スウェーデン語をマスターできるということのほか、スウェーデン人のものの考え方を言語学的に理解できるという意味で大いに役立った。こうした経験を利用して両国の親善に役立ちたいと思っている。

目次

スウェーデンと私	飯野 靖四	1
ニイボンとリオンベール	石井新太郎	2
スウェーデンサラリーマン基金財団 基本構想について	菱木昭八朗	3
(ニュース) ねむの木の美術展、11月に スウェーデンで		4
高合化社会調査視察団帰国		5
(研究会報告) スウェーデンの社会・文 化・教育における最近の動向		5
(お知らせ) 「福祉社会」を再考するゼミナール		6

ニイボンとリヨンベール

Nypon and Rönnbär

スウェーデン大使館広報課 石井 新太郎
Mr. Shintaro Ishii



スウェーデンの人々は、野や森へ家族で出かけて行き、きのこや漿果を摘み、冷凍したり、ジャムにしたり、また様々な保存法を駆使して暗く長く過酷な冬にまで大切にしまっておこうとする。

秋も深まり、バルト海から湿った冷たい霧が朝晩イェルデットの野づらをそっと覆うようになり、日一日と夜が長さを急速に増していく時、大学での授業が午後まで無いので私は、朝食もそこそこに外へ飛び出していくのだった。7階の窓の外は霧で朧に霞み、いつもの見慣れた景色も濃い灰色の混沌の中にさだかでない。

晴れて清澄な青い空も好きであるが、日常を摩訶不思議な異常世界としてしまうこの霧の朝は本当に好きなものの一つであった。急ぎ足でいつもの散歩道に向う。太陽が高く昇れば、この地上の霧は散逸し、長い冬を暗示する灰色の一日に再びもどしてしまうのだ。

やはりある霧の日であったが、大学から帰る途中、わざわざ少し遠回りしてスウェーデン放送局の近くの教会を抜けて帰ったことがある。墓地の中の巨きな石がまさに、ヨーン・パウエルの挿絵のトルロルとなって私の前に現われた時、これこそ北欧の民話の世界なのだと感激したものだ。霧は奇妙なものを見せてくれる。

漿果類の中で秋遅くまで残っているものに野バラの実、ニイボンと西洋ナナカマドの実、リヨンベールがある。どちらも綺麗なルビー色の実で、食用である。私の住んでいたイェルデットの学生寮、ヒューギン・オ・ミューニンの近辺にも自生

していた。

私がこの霧の世界を見ようと飛び出していった日、ぎざぎざの黒い鉄の刺を剥出しにして銀の微粒子が静かに空中に漂う中に、ニイボンの無骨な薺がシルエットになってぼんやり浮かんでいた。2つの人影が動いて乳白色の背景に鮮かに紅に浮ぶ珠玉の実を摘んでいる。ニイボンの実はジャムになったり、乾燥してお茶にしたり、また砂糖とろみを加えて、所謂、ニイボン・ソップ（野バラの実のスープ）として食す。きわめてビタミンCの豊富な食物である。最近日本でも女性の健康食としてもはやされているとか。酸味の強い、非常に爽やかなものである。なによりも天然自然のものであるのが嬉しい。

黒い薺の中のニイボンは秋を遅くまで彩るものであるが、葡萄の房状に小粒の実をつけるリヨンベールは最初の霜がおきるまでである。冷たくキーンと張りつめた朝、もちろん窓の外はシャープに景色が見えるような日、そんな日は、下の小さな公園が小鳥の声でいやに騒々しい。

リヨンベールの実は酸味が酷くきつい。最初の霜が降りるとようやく甘味が出てくるのだ。これを小鳥たちがのがすはずが無い。むろん霜の降りた日、小鳥のいない、実をたわわにつけた木もある。でも、そんな所は、気温にむらがあって温度が高く、霜が降りなかった所なのだ。

小鳥たちよりも先に、甘くなったこの実を、赤い綺麗なジェリーにしようと思ふことは至難のわざである。

スウェーデンの秋というところの二種類の赤い実をなつかしく想い出す。

スウェーデン

サラリーマン基金財団基本構想について

Om Löntagarfondsplan

専修大学法学部 教授 菱木 昭八郎

Prof. Shohachiro Hishiki

(1) 去る6月30日、スウェーデン社民党政権の1982年選挙における選挙公約の一つであり、従ってまたパルメ社党内閣の最大の政治的課題ともなっていたサラリーマン基金財団(Löntagarfond)に関する基本構想案が政府審議会から政府に提出されるに至った。

サラリーマン基金財団(以下単にサラリーマン・ファンドと呼ぶ)設立の目的はサラリーマンの月給および企業の収益からその一部を出拠させ、それを企業に投資することによってここ10年来不況に喘でいるスウェーデン経済の活性化を計ろうとするものである。しかし、とは云うもののこのようなサラリーマン・ファンド構想に対しては野党、経営者サイドに強力な反対意見があり、既に経営者協会はサラリーマン・ファンドの実現反対、計画粉碎を目指して大衆運動を展開しているということである。

サラリーマン・ファンド構想の実現が、果してスヴェンスカ・ダグブレード紙のいうようにスウェーデンにおけるオーウェル時代(註)の到来を意味するものであるか否はともかくとして、ここ当分の間、スウェーデン政財界はサラリーマン・ファンド問題をめぐって大きく揺れ動くものと思われる。

(2) それでは一体、サラリーマン・ファンド調査委員会(別名、本調査委員会は委員長の名をとってエデン委員会とも呼ばれている)から発表されたサラリーマン・ファンドの基本構想とはどのような内容のものなのであろうか。まだ私の手許にエデン委員会の調査報告書は届いていないので、細い点については必しも明らかではないが、6月30日からこれまでの新聞報道に見るかぎり、その内容は大体次のようなものである。

① サラリーマン・ファンドの基金調達

サラリーマン・ファンドの基金となる資金はサラリーマンの月給および各企業の年間利益金から一定の割合いで徴収した金をもって充当し、そし

て集められた金をAPファンドにプールし、そしてそこから各サラリーマン・ファンドに分配する。

サラリーマン・ファンドはスウェーデン全国を5つの地区に分け、それぞれの地区に一つずつサラリーマン・ファンドを設ける。

サラリーマンの月給からの拠出分は、月給の0.2パーセントから0.5パーセントまでの範囲内とし、取敢えず初年度すなわち1984年度は0.2パーセントとする。それ以降は2、3年を単位としてパーセンテージを改訂してゆく。しかしその最高限度額は0.5パーセントに留めて置く。

各企業からの拠出金は、当該企業の年間利益の20パーセント相当額とする。但し、各企業は年間利益の中から最高500,000クローネ、または年間支払給与額の6パーセント相当額を基礎控除として差引いて置くことがみとめられている。

各サラリーマンおよび企業から集められたファンド基金は一旦APファンド(国民年金ファンド)にプールされ、そこから各ファンドに毎年4億クローネ、全体として20億クローネの資金が基金として割当てられる。但し各ファンドへの分配金は全体としてAPファンドにプールされた徴収金の5分の1を超えてはならないという制約が設けられている。

各ファンドは配分された金額に応じ、それぞれその3パーセントをAPファンドに利息として支払う。

② 基金の運用方法

APファンドから基金の分配を受けた各サラリーマン・ファンドはその基金の一部を株式投資もしくは企業の設備投資貸付資金として利用することがみとめられている。但し各ファンドの株式投資資金として運用出来る金額はファンド財産の14パーセントまでとされている。

また各ファンドの取得出来る株式保有高は1企業につきその企業の発行している株式の49パーセントまでとするという制限が設けられている。しか

しと云っても、各ファンドはそれぞれ同一企業について49パーセントまでの株式取得がみとめられているかぎりにおいて、5つのファンドが連合して一斉に同一企業の株式取得に乗り出した場合、49パーセントという制約がどのような意味をもってくるのか疑問である。

ところで各ファンドが保有している株式について、ファンドは所有株式の株主権をどのような形で行使するかという問題がある。エデン構想ではファンドの所有する株式の株主権の行使は当該企業の労働組合に委任されることになっている。但し、その場合、労働組合の行使出来る株主としての投票権は株式保有ファンドの所有している株式の2分の1に留められている。

またエデン案では、各ファンドが株式投資に振りむけることの出来る金額とし、1990年までの間は最高額150億クローネまでとするという制約も設けられている。

各ファンドが基金の運用によって得た利益はもちろんそのままファンドの基金の中に組み込まれてゆくことになっているが、各ファンドは基金の運用によって利益を得た場合、その利益の3パーセント相当額を毎年ATP機構に出捐することが義務づけられている。

③ サラリーマン・ファンドの機関＝理事会

各サラリーマン・ファンドは、その業務を遂行するために業務執行機関として理事会を持つ。各ファンドの理事の定員は9名とし、そのうち5名は各ファンドの置かれている地区内の労働組合によって選任される。そしてその外に更に4名の予備理事が選任されることになっている。理事の任免権は政府に帰属する。

以上のことがエデン報告書に盛られているサラ

リーマン・ファンドの大体の構想であるが、エデン報告書はもし来年サラリーマン・ファンド構想が実現した場合、1989年まで実現された時の形で一応実施してみて、1990年に改めて見直して行うということが考えられている。しかしそれまでに問題が生じた場合、どのような形でその問題を処理してゆくのか必しも明らかにされていない。

(3) それにしても、毎年20億クローネ近いお金が株式市場に流れ込んできた場合、株式市場は一体どのような影響をうけるであろうか。そしてまたファンドによって株式取得対象企業として白羽の矢を立てられた企業は一体どのようにして企業のファンド支配、労働組合支配に対抗してゆくのであろうか。

これからのエデン報告書の取扱いに関する政府のスケジュールは大体次の如くである。先づ報告書は各レミッス機関に配布され、その結果が大蔵省でまとめられるのが大体9月から10月頃になる。そして各関係機関から提出されてきた意見をとりまとめて政府原案が作成され、法案として国会に上程されてくるのが11月始め頃になる。実に大蔵委員会での審議を終えて国会の本会議にかけられるのが12月頃になる。ともかく政府は法案の年内成立を目指してこれから勢力的に行動を開始してくるであろう。これからスウェーデン国会の内と外で、政府与党対野党、経営者対労働者の間でサラリーマン・ファンド設立をめぐるどのような抗争が繰り広げられるか、極めて興味のあるところである。

(7月6日記)

註 オーウェル時代 小説「1984年」を書いたイギリスの小説家G・オーウェル(George Orwell 1903-1950)の名前に由来する。因みに「1984年」(Nineteen Eighty-four, 1949)という小説は、未来の全体主義国家像を描いたもの。

<ニュース>

ねむの木の美術展、11月にスウェーデンで

「ねむの木の美術展」が、来る11月にストックホルムで開かれることになった。

そしてこれに先立ち、「ねむの木の子どもたち——美術展」が、去る8月5日から、東京・池袋の西武百貨店池袋店で始まり、お祝いにかけつけられたルーネウス駐日スウェーデン大使によって、テープカットが行われた。

出品されたのは、今春で創立15周年を迎えたねむの木学園の子どもたちの初期から最近に至るまでの絵や折りもの、木工の作品約500点。子どもたちの作品のほか母親代りの宮城まり子さんとの暮しぶりの写真も掲げてあったが、今年6月のスイス・チューリヒに続く今度のスウェーデンでの展示会は、大きな反響を呼ぶことであろう。

(H. N.)

高令化社会調査視察団帰国

予てお知らせしました標記の視察団は、当研究所評議員の三浦文夫先生を団長として、参加者総数24名、去る8月28日より9月11日までの間、スウェーデン・ノールウェー・デンマーク・オランダ・ベルギー・フランスの6ヶ国を訪問し、各国における老後生活の充実化に関する事情と対策を調査視察し、無事全員帰国された。

この視察結果は本誌次号以下にて会員各位にご報告いたします。

以下に参加者の芳名を掲載し、視察の労をおねぎらい申し上げます。(敬称略、アイウエオ順)

団	長	三	浦	文	夫	日本社会事業大学教授
コーディネーター		大	橋	謙	策	日本社会事業大学助教授
副	団	上	野	章	子	向陽スポーツ文化クラブ会長
		潮		勇	三	簡易保険郵便年金福祉事業団職員課長
		宇津宮		幸	枝	宇津宮医院
		梅田			守	梅田製作所社長
		貝塚		忠	弘	北海道新聞社論説委員室
		菊地		光	隆	キューピーアヲハタ健康保険組合
		城戸		喜	子	社会保障研究所主任研究員
		近藤		哲	朗	千葉県勤労者生活協同組合常務兼県民共済事業部長
		下村		好	代	向陽スポーツ文化クラブ理事
		荘村		多加	志	中央法規出版(株)副社長
		高萩		盾	男	(株)福祉開発研究所調査研究部長
		竹内		か	つ	大田区教育委員会委員
		辻			正	私立学校教職員共済組合企画調査室長調査役
		辻		義	人	東北福祉大学教授
		中山		秀	豊	私立学校教職員共済組合企画調査室次長
		萩原		清	子	長野大学助教授
		林		宰	次	日本医療福祉専門学院委員 日本社会事業大学講師
		深瀬		茂	夫	農林漁業団体職員共済組合企画部組織情報課長
		本間		信	吾	東京都老人総合研究所
		松岡		寿美	子	向陽スポーツ文化クラブ理事
		宮城		早	苗	向陽スポーツ文化クラブ副会長
		渡辺			亮	相模原市社会福祉協議会地域福祉係長
添	乗	員	小	宮	健	(株)ユニバーサル航空サービス営業本部長
添	乗	員	小	林	修	(株)ユニバーサル航空サービス旅客営業部

<研究会報告>

スウェーデンの社会・文化・教育における最近の動向

会員 三瓶 恵子 氏

去る7月18日午後2時から、当研究所において、月報にしばしば現地通信を寄せておられるウップサラ大学院で研究中の三瓶恵子氏が久しぶりに帰国されたのを機会にお迎えして、標記の話を伺うことを得た。

とくに専攻されている教育の分野については、幼児教育から成人教育までの多岐にわたってふれられたが、失業問題は深刻で、近年中に基礎学校教員7,000名が不用になりそうであるとか、進学も就職もしない青年を地方教育委員会がフォローアップするのが大きな仕事となっているとか、生々しい情報が提供された。

なおこの社会は、男女平等化の推進にさらなる努力を傾け、経済的停滞の中にあっても文化政策を後退させるところがないことを、永らく住まわれていたエーレプロおよび最近移られたイェテボリイでの事情に即して話され、参会者一同感銘を深くしたことであった。(H. N)

「福祉社会」を再考するゼミナール

明治大学の岡野加穂留、吉田忠雄両教授を責任者とする標記ゼミナールが下記の趣旨により開始されましたので、当研究所の会員の方々のご参加をお願いいたします。

今後のスケジュールにつきましては、下記の事務局へご照会下さい。

(研究会の趣旨)

今般、明治大学社会科学研究所の研究費で「福祉社会を再考するゼミナール」をおよそ2年余りに亘って開催することにいたしました。

「福祉」を見直すと、という考え方が流行していますが、政治の原点である「福祉」を“スケープ・ゴート”にするのではなく、この考えかたを新しい文明に対応して現代国家の権力システムの再系列化の理論のために、利用すべきだと思います。19世紀的な主権国家概念の崩壊であり、工業社会を軸とした理念の終焉でもあります。そこで、これからの政治・社会などのシステムを考察する方法として、北欧社会などの先進福祉社会の批判的な考察などを進めながら「タテ」割りの専門分野にとらわれずに、自由な発想と、専門と専門の接点を見出し、「ヨコ」に幅広い、研究・論議の時間を設定してみようと考えています。専門家が、他の分野の方々にはまったく理解できぬような言葉で考えるのではなく、専門センスを暫時の期間中断して、コンモン・センスで考えてみたいということです。

「ヨコ」の研究会という意味で、ぜひとも御参加いただきたく、御案内申し上げる次第です。なお、会への義務・拘束条件はありません。また会費等も不要です。

(事務局)

〒101 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学政経学部 岡野研究室内

電話 代表 296-4545 内線 4347

直通 296-4347

事務局担当 大六野 耕作 (明治大学助手)

<SIPニュース>

新ガイドブック「特選ストックホルム案内」

「特選ストックホルム案内」“The Pick of Stockholm”という英語のガイドブックが出たが、同書はスウェーデンの首都をつぶさに紹介しており、様々な記載事項に、さらに近辺のレストラン及び名所等のガイドをつけた点がみそである。たとえば、郵便博物館 (the Postal Museum) に行こうとして、ガイドブックをみると、その近くには、ドイツ教会 (the German Church)、ストックホルム大聖堂 (the Stockholm Cathedral)、ノーベルの家、3軒の一流レストランがあるという事まで、ちゃんと記されている。すなわち、旅行者の時間の節約とより合理的な観光プランニングに大いに役立つという訳である。

フランクワード (Frank Ward) 著、P. A. ノルステッド・ア・セーネル出版社 (P. A. Norstedt & Söners Förlag) 発行の同ガイドブック、174ページの小型本で、簡明さを売り物に、レストラン、バー、ナイトクラブ、旧跡、専門店、博物館、散歩、小旅行、文化生活等に関する多彩な情報を満載する。なお、この他の記載項目は以下のとおり——「散策コース」、「宿泊設備」、「スポーツ及びリクリエーション」、「特別なみどころや変わった場所をお望みの向きに」。25枚のカラー写真と地図数枚が付いて、新ガイドブックは45クローナ (1,395円)。